

話す？ 話さない？



被災や避難の経験を伝える

震災当時、保育園・幼稚園の年長や小学校低学年であっても、当時のことを覚えているという人は思いのほか多く、それほど大きな出来事だったことがわかります。大切なものを一瞬にして失う恐ろしさ、防災・減災の大切さ、日常や人とのつながりの大切さなど、多くの人に知って欲しいと考える人もいて、伝えられる場や一緒に考える場があるといいと思います。その一方で、「思い出したくない人もいる」ということも、忘れてはなりません。

子ども・若者の声

- 震災や宮城のことは、家族の会話の中で身近な話題としてでてくる。世間は風化しているということに驚く。
(宮城県石巻市:現在大学4年生)
- 小学5年生の時、東日本大震災について調べて発表する授業があり、先生のサポートで自分が福島にいたことも話した。その後、同級生が質問をいっぱいしてくれて、みんな興味がないわけではなくて知らないだけなんだなと思った。
(福島県伊達市:当時小学5年生)
- 放射能のことを友だちに話すと、9割方「放射能は大丈夫なんでしょ」と言われる。めっちゃくちゃ気にする必要はないと思うけど、ちゃんと知って欲しいと思う。
(福島県伊達市:現在高校3年生)

311県外避難者について考えよう